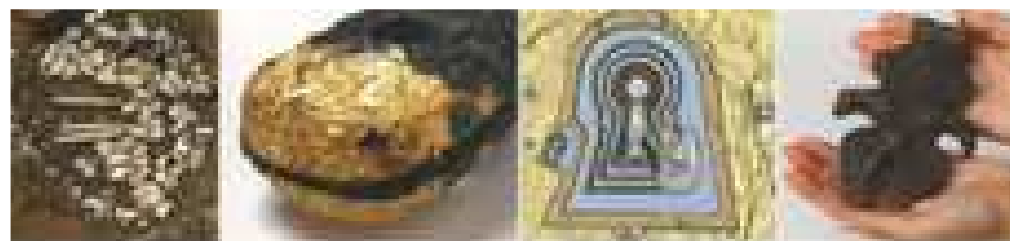




発掘された日本列島2013 新発見考古学展

2013.6.15. 東京両国 江戸東京博物館





発掘された 日本列島 2013

新発見考古速報

文化庁
三



東京・両国 江戸東京博物館



2013日本列島新発見展 「鉄」関連展示 見学抜粋 2013.6.15.

1. 弥生時代 幅・津留遺跡 熊本県高森町・南阿蘇村

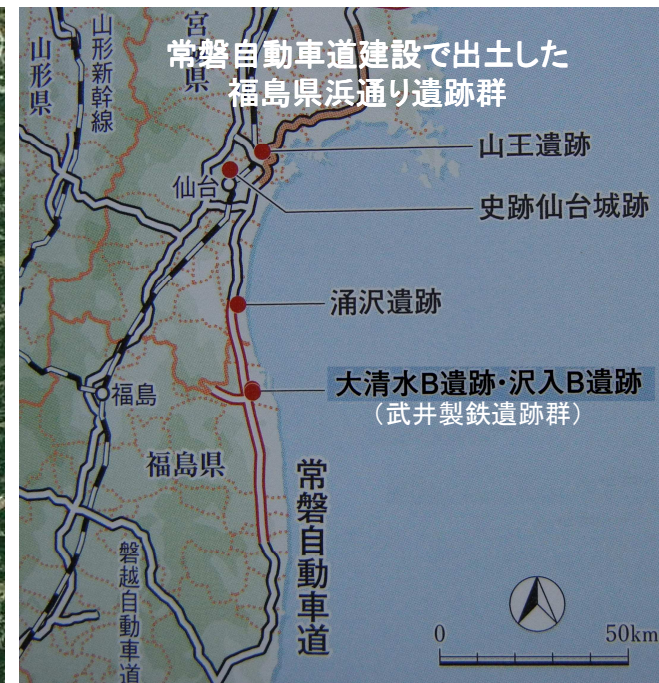
阿蘇カルデラ北の阿蘇谷のほか 南東部 南郷谷にも鉄器を集積した集落遺跡があった

環濠・倉庫・工房・墓を備えた中期～後期の中九州拠点集落
石器から鉄器へ 道具の変遷も明らかに

2. 大清水B遺跡・沢入B遺跡 福島県新地町

平安時代大和政権の蝦夷征伐の最前線の兵器庫 武井製鉄遺跡群の製鉄遺跡

平安時代 9世紀半ばの製鉄炉 同一時期・同一地点で竪型炉と箱型炉が併設
同時期に二つの炉が併設されているのは福島県浜通り北部の特徴



1. 弥生時代 幅・津留遺跡 熊本県高森町・南阿蘇村

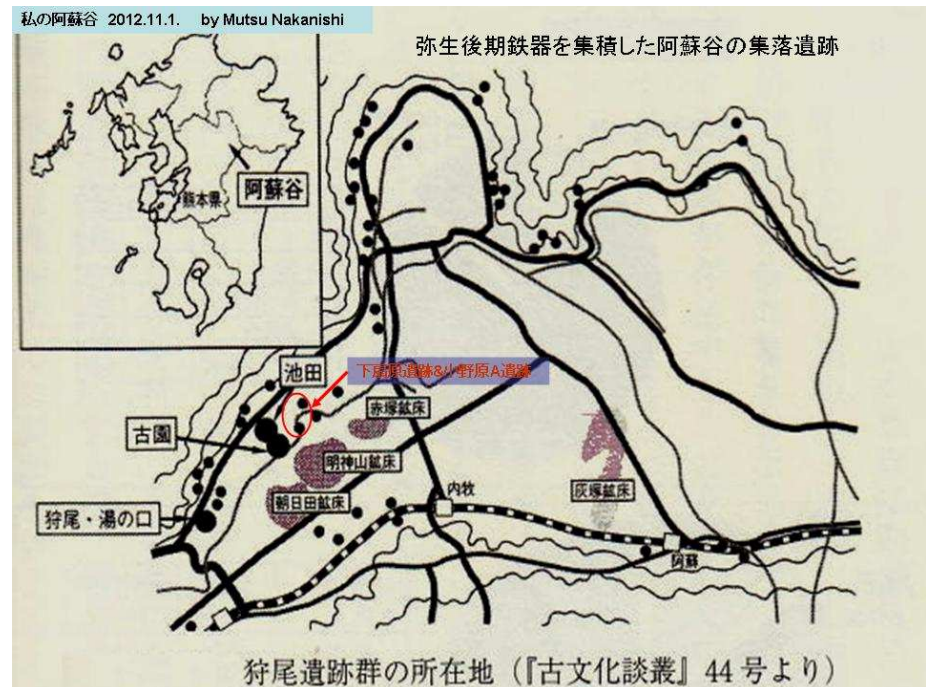
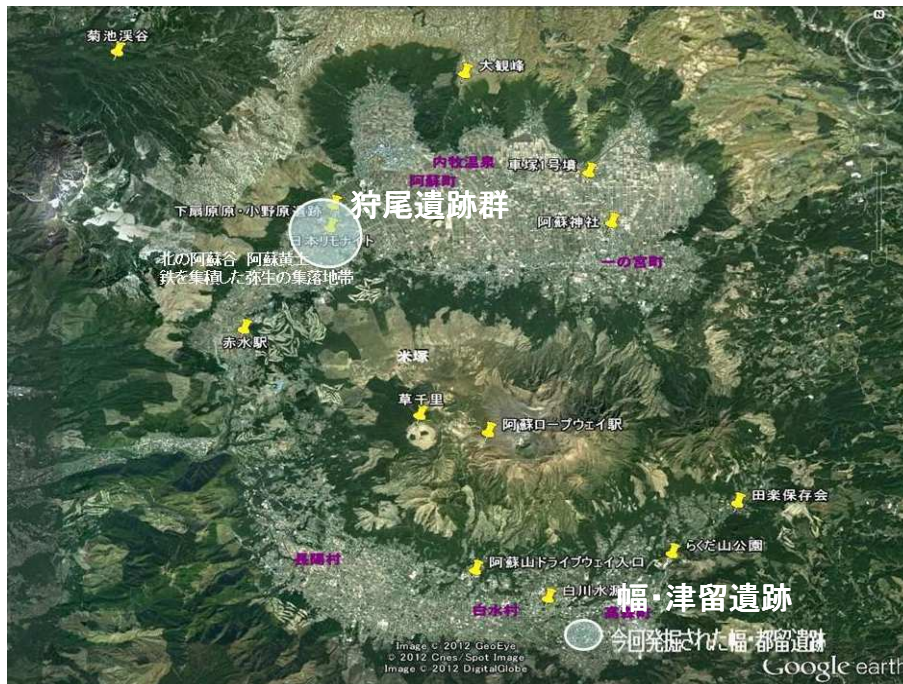
阿蘇カルデラ北の阿蘇谷のほか 南東部 南郷谷にも鉄器を集積した集落遺跡があった

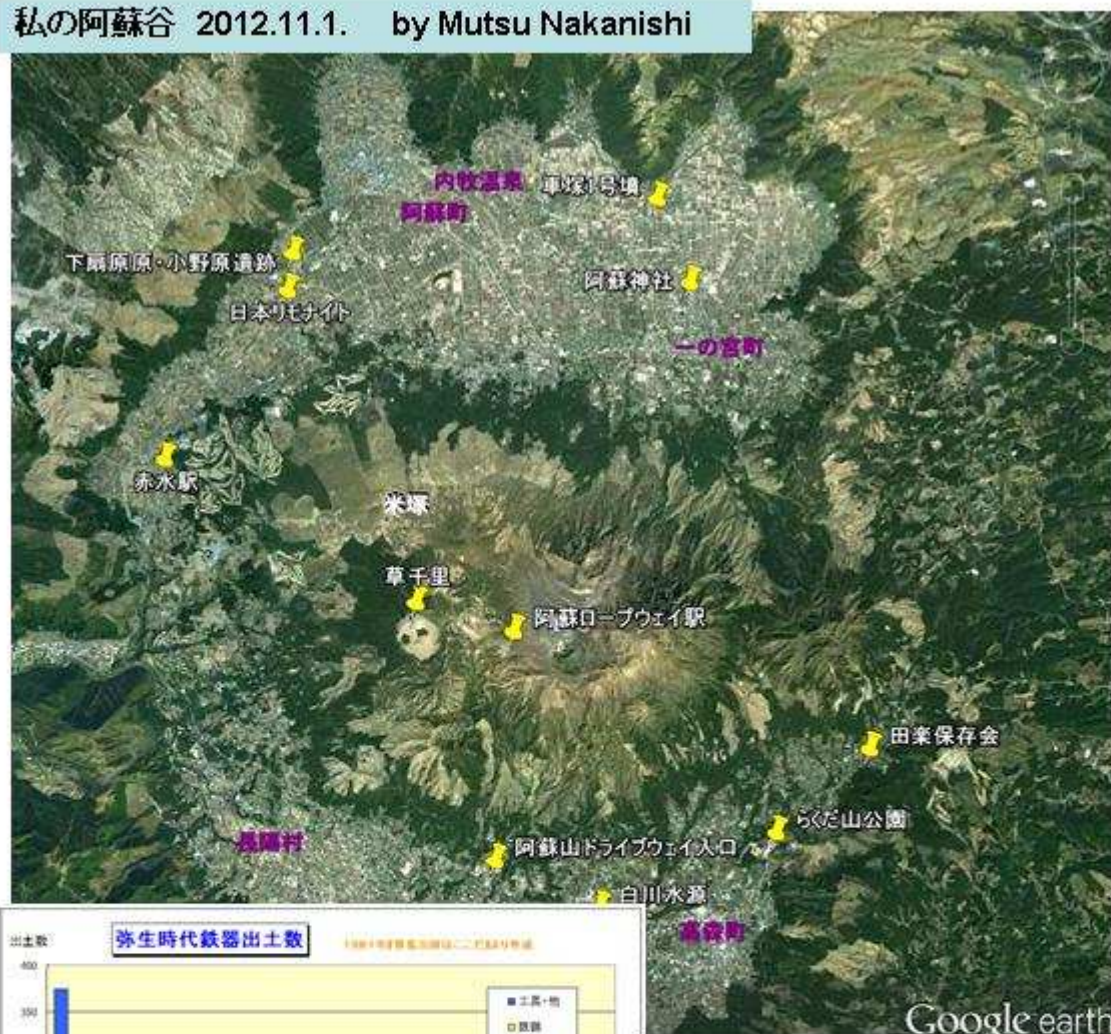
環濠・倉庫・工房・墓を備えた中期～後期中九州拠点集落
石器から鉄器へ 道具の変遷も明らかに

阿蘇谷の北部 ベンガラ原料阿蘇黄土が出土する狩尾地区には
弥生時代後期 周囲の遺跡に先立って鉄器を大量に集積した弥生集落遺跡群「狩尾弥生遺跡群」がある。
しかし なぜ、周囲の遺跡にはない先進の鉄器を集積した理由は良くわからないが、
阿蘇黄土は褐鉄鉱で品位は低い 製鉄原料になりうるかも知れず、製鉄との関連性も考えられる。

そんな阿蘇谷の東南部 弥生中期から後期の弥生集落遺跡「幅・津留集落遺跡」から鉄器工具が出土
しかも 集落の移り変わりが石器から鉄器への工具変遷を明確にしめているという。

阿蘇谷北部 弥生後期の「狩尾遺跡群」に先立つ弥生中期 阿蘇谷東南部の「幅・津留集落遺跡」から鉄器工具の集積が見つかった。阿蘇谷の鉄器集積の謎を解くカギになるかもしれないと興味深々です。





《熊本倭人伝・抜粋文》

其四年倭王復遣使大夫伊賀聲者敏邪狗等八人上献生口倭錦綺青兼縣衣帛布丹木付短弓矢

其四年、倭王、復た使大夫伊賀聲・敏邪狗等八人を遣わし、生口、倭錦、綺青兼、縣衣、帛布、丹、木付、短弓矢を上献す。

との記載がある。倭王卑弥呼から魏へ贈られた献上品に「丹」(ベンガラ)が名を連ねていることがわかる。更に、

其山有丹其木有殷杆豫樟檉投檉烏號楓香其竹篠幹桃支有蘆橘瓊瑤荷不知以為滋味有蘭侯

其の山に丹有り。その木には殷杆、豫樟、檉、投、檉、烏号、楓香あり。其の竹には篠、幹、桃支、蘆、橘、瓊、瑤、荷あるも、以て滋味となすを知らず。

との記載がある。倭王卑弥呼から魏へ贈られた献上品に「丹」(ベンガラ)が名を連ねていることがわかる。更に、

との記載から、卑弥呼の支配地域の産物として「丹」が特筆されていたことが窺える。

昭和五十四年、阿蘇町中通古墳群一帯で実施された遺構整備中に、大量のベンガラ(鉄丹)が流出し、近くの水路が血のように真っ赤に染まっているのが見つかった。さらに同年、北外輪山の御塚横穴群から隙間なく、ベンガラで塗り込められた石室が発見された。同じく五十八年阿蘇町乙姫下山西遺跡の弥生後期石棺からも多量のベンガラが出てきた。三基あわせて百五十坪。

古代日本では活力と蘇生の象徴として、中国では不老不死の秘薬として珍重され活用されていた「丹」が、女王卑弥呼の絶大な権力に極めて大きな影響を与えたことは想像に難しくない。これまで研究者の間では「丹」を水銀朱とみなす説が有力だったが、ベンガラについての研究はなされてこなかった。



阿蘇黄土



焼いて冷ますと「ベンガラ」に



弥生時代 幅・津留遺跡 熊本県高森町・南阿蘇村

2013日本列島発掘新発見展 図録より

道路建設途中に発見されたこの遺跡、全長1300m幅14mの区域で、竪穴建物・高床倉庫・環濠・墓・居住区と墓を区画する溝・祭祀土坑などを有する時代の異なる二つの集落跡を確認。

弥生時代中期後半の西側の集合集落＝西のムラ

弥生後期後半に出来た東側の集合集落＝東のムラ

人口増加に伴い東に移動したと思われるが、様子はちょっと違う。

西の村では環濠を備え、外部から容易には進入できない。一方、東の村には区画溝があるが、浅いものでいつでも入れ、東の村が形成されたときには激しい戦いはなかったのかもしれないという。

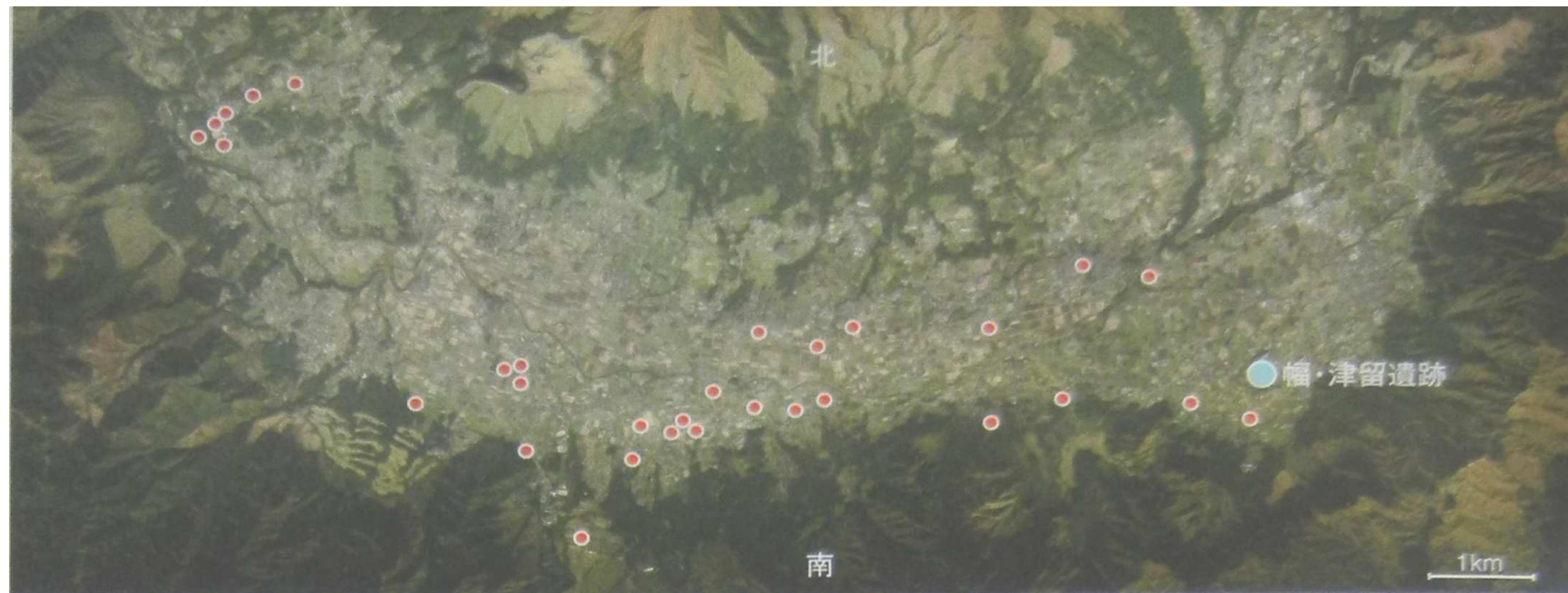
また、西の村では磨きあげた石鏃など石の道具が中心なのに東の村では鉄器が道具の中心であった。

これだけ道具の変遷がわかる遺跡は大変珍しい。



遺構配置(東のムラ)

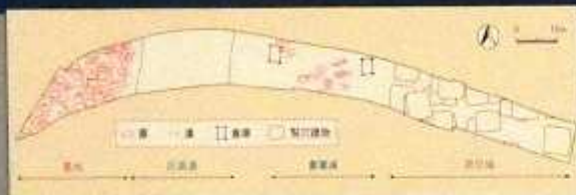
東西どちらのムラも溝で居住域と葉回帰が区画されており、東のムラの墓域では木棺墓や土坑墓が焼く290平方メートル内に107基発見された。また、倉庫域内にも小さな木棺墓があり、子供の墓を家の近くに作ったものと考えられている。高床倉庫は東西どちらのムラでも標高が最も高い位置にあり、意識的に高い場所を選択していたと考えられる





【幅・津留遺跡と周辺の弥生遺跡】

幅・津留遺跡は、阿蘇カルデラ内にある、弥生時代の中期から後期の大集落です。カルデラ内の南の平野部では最も標高が高く、周囲に点在する弥生集落を一望できる立地です。



【遺跡配置図】

これまでの発掘調査で、始めに時期差のある東西二つのムラがあったことがわかりました。東のムラでは平成 18 年（2006）からの発掘調査により、竪穴建物、掘立柱建物、環濠、墓、居住域と墓を区分する区画溝、祭祀土坑などが発見されました。



【西のムラの東側の遺跡】

西のムラ（約 2,000 年前）では石の道具が、東のムラ（約 1,800 年前）では鉄の道具が中心でした。西のムラから東のムラへと移り住んだと考えられ、道具の変遷がわかります。



阿蘇カルデラ内南東部 高森町・南阿蘇村

石器から鉄器・土器への移り変わりを示す弥生の大集落 幅・津留遺跡 出土品(1)

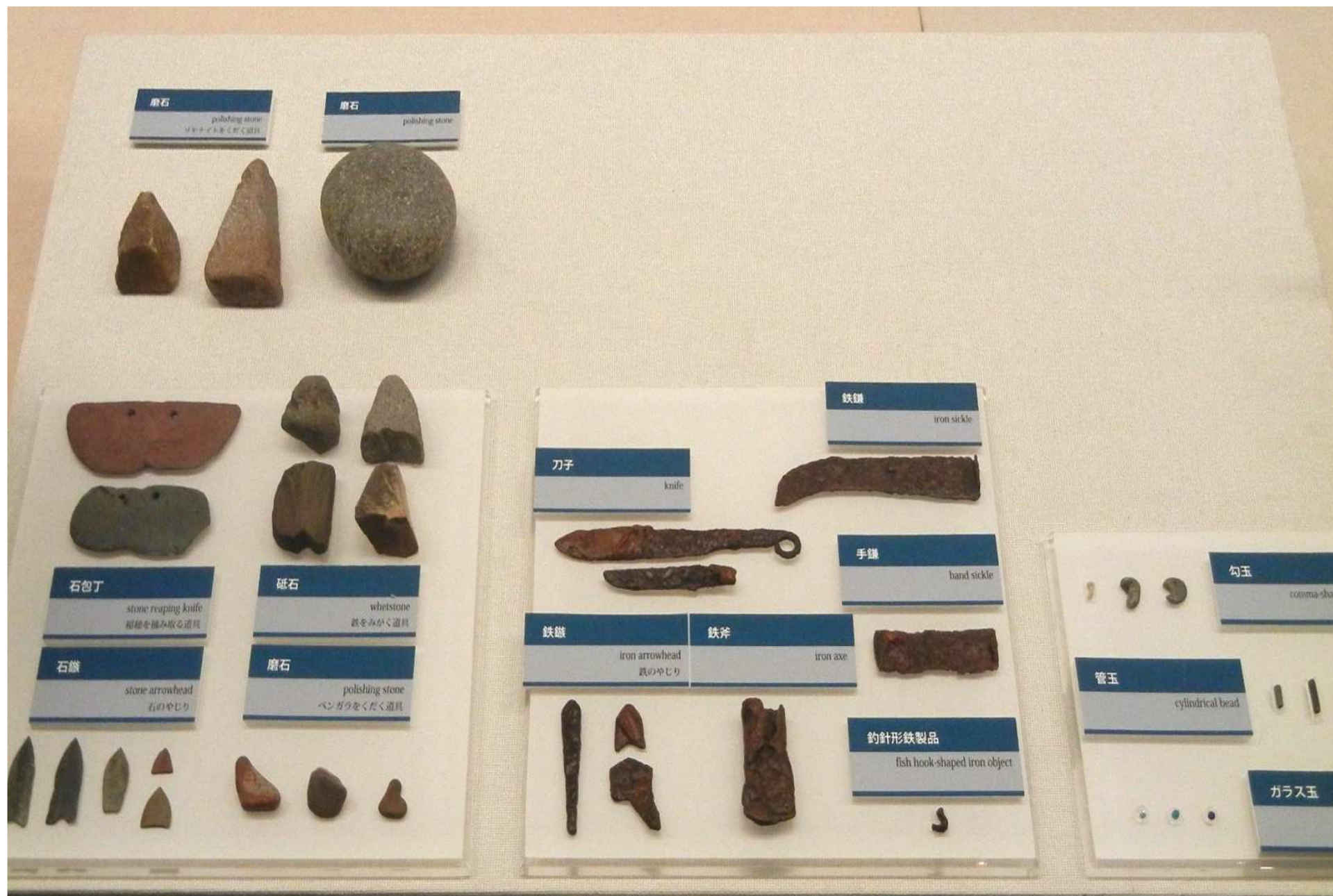


石器から鉄器の道具への移り変わりを示す弥生の大集落 幅・津留遺跡 出土品(2)



阿蘇カルデラ内南東部 高森町・南阿蘇村

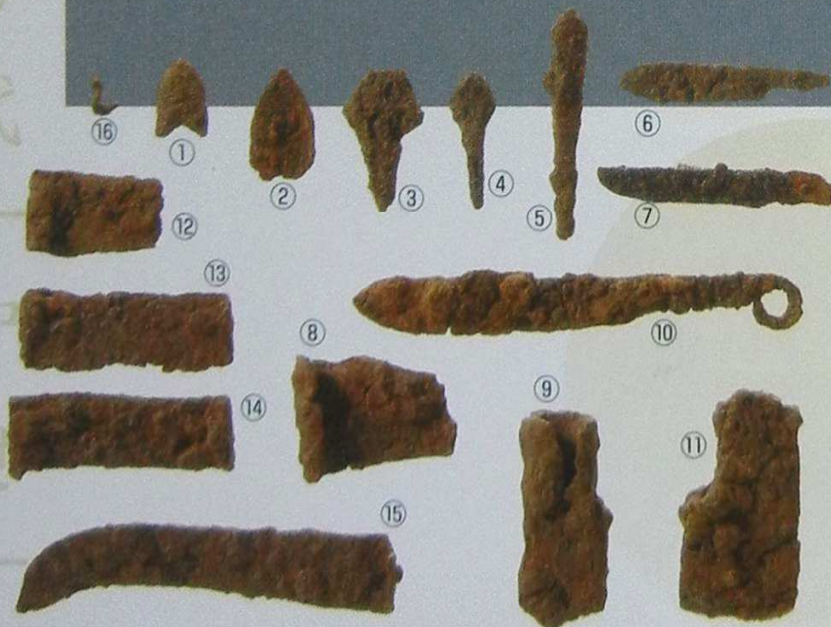
石器から鉄器道具への移り変わりを示す弥生の大集落 幅・津留遺跡 出土品〔1〕



石器から鉄器の道具への移り変わりを示す弥生の大集落 幅・津留遺跡 出土品〔2〕

〈おもな遺物〉 幅・津留遺跡

熊本県高森町・南阿蘇村



鉄製品

弥生時代後期（約 1900～1800 年前）
右下の⑪（鍛造鉄斧）のみが西のムラの土坑から出土したもので、他はすべて東のムラの竪穴建物などから出土しました。東のムラの鉄製品は、数量・器種ともに豊富で、道具が鉄に切り替わっていることが理解できます。

- ①～⑤鉄鏃 ⑥～⑦刀子
⑧刃の先が折れた鎌
⑨袋状鉄斧
⑩素環頭刀子 ⑪鍛造鉄斧
⑫～⑭手鎌 ⑮鎌 ⑯釣針



壺

弥生時代後期後半（約 1800 年前）
壺の口（口縁部）が「く」の字に湾曲しています。後期の祭祀土坑から出土しました。

にぬりたかつき 丹塗高杯

弥生時代中期後半（約 2000 年前）
西のムラの中期後半の祭祀溝から出土しました。赤い顔料（ベンガラ）を塗った土器（丹塗土器）です。ほかにも壺、杯、甕などが出土しています。後期の祭祀土坑からは、この高杯は1点も出土していません。弥生時代中期と後期とでは、出土物からも「まつり」に違いが生じてきていることがわかります。



粗砥

（安山岩製）

中砥

（安山岩・砂岩製）

といし 砥石

弥生時代後期後半（約 1800 年前）
仕上げ砥（泥岩や流紋岩製）

東のムラの竪穴建物からは砥石が大量に出土します。同じ形状で大きさが異なる砥石が1軒から12点出土した例もあり、鉄鏃や刀子などに使い分けていたと考えられます。



すりいし 磨石

弥生時代後期後半（約 1800 年前）
東のムラの竪穴建物から出土しました。阿蘇地方は鉄を含んだ土（阿蘇黄土）を大量に産出します。この土を焼いて作った顔料であるベンガラを粉状に砕いて膠に溶かし、絵の具にしていたと想定されます。この磨石にはベンガラが付着しており、固体状のものを粉状に粉砕するために使用したものと考えられます。

2. 平安時代大和政権の蝦夷征伐の最前線の兵器庫 福島県浜通りの製鉄遺跡群 武井製鉄遺跡群 大清水B遺跡・沢入B遺跡



奈良・平安時代 7世紀後半から9世紀後半にかけて、福島県浜通り地域で多数の製鉄関連遺跡が確認されており、中でも相馬地区地方では 新地町・武井製鉄遺跡群 相馬市・大坪製鉄遺跡群や、南相馬市・金沢製鉄遺跡群など200を超える製鉄遺跡が出土している。

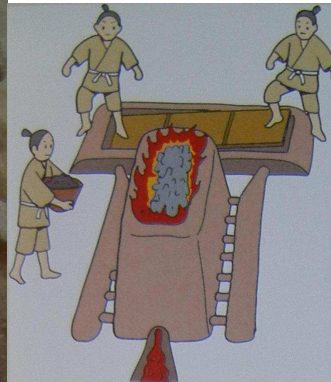
これらの製鉄遺跡群は律令国家体制を整え、製鉄量産化技術を確立した大和政権蝦夷征伐の最前線の武器庫としての役割を担っていた。

また、これらの製鉄遺跡群の製鉄炉は近畿で育まれた大型の箱型炉と東北で育まれた竪型炉の両方がそれぞれの場所・時期に応じて建設されてきた。

今回発掘された武井製鉄遺跡群の大清水B遺跡・沢入B遺跡の注目すべき点は近畿で育まれた大型の箱型炉と東北で育まれた竪型炉の両方が同時期・同地区に並立し、「ズク鉄・銑鉄」生産に用いられていたことで、福島浜通り 北部地区遺跡群の特徴だという。

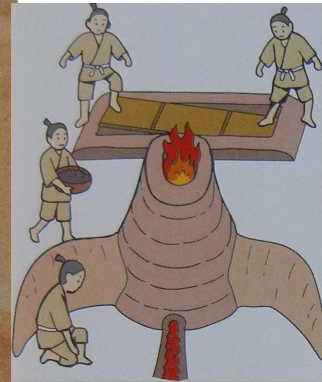
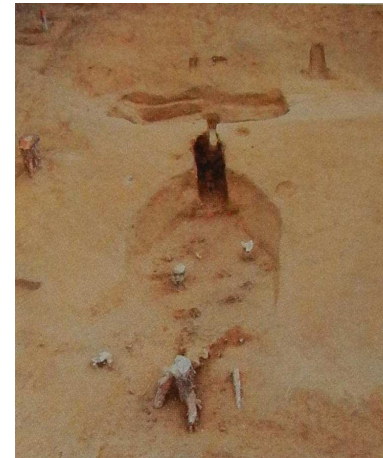
武井製鉄遺跡群 大清水B遺跡・沢入B遺跡の製鉄炉

2013日本列島発掘新発見展 図録より



大清水B遺跡の箱型炉

中央の黒い部分に粘土で作った炉があり奥の四角の穴は踏み鞆の設置場所



沢入B遺跡の竪型炉

中央の黒い部分が炉で、その奥の長方形の穴が踏み鞆、手前側が作業場

平安時代 約 1,100 年前
Heian Period (about 1,100 years ago)

おひし みず さわいり
大清水 B 遺跡・沢入 B 遺跡
Oshimizu B Site・Sawairi B Site

福島県 新地町
Shinichi-machi, FUKUSHIMA

復興事業に伴う発掘調査

古代 福島県教育庁

大清水 B 遺跡・沢入 B 遺跡
【遺跡の概要】

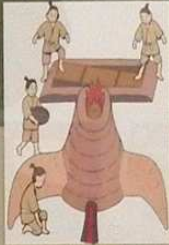


【作業風景】

大清水 B 遺跡と沢入 B 遺跡は、福島県の浜通り地区の鹿狼山から東に延びる丘陵上に立地する、平安時代の製鉄関連遺跡です。復興道路に位置付けられた常磐自動車道の建設に伴い発掘調査が行われました。

古代 福島県教育庁

大清水 B 遺跡・沢入 B 遺跡



【箱型炉の様式図】



【罌型炉の様式図】

古代の製鉄炉には、バスタブのような形状をした箱型炉と、バケツをひっくり返したような罌筒形の罌型炉の 2 タイプがありますが、浜通り地区の製鉄遺跡では同一地域でかつ同時期に使用されていました。

古代 福島県教育庁

大清水 B 遺跡・沢入 B 遺跡



【1号製鉄炉（箱型炉）全景（大清水 B 遺跡）】



【1号製鉄炉（罌型炉）全景（沢入 B 遺跡）】

竪型炉の通風管は内径 7 cm 程の太いものが一本、箱形炉では内径 3 cm ほどの細いものが十数本設置されていました。いずれの炉でも炭素量の多い鉄鉄が見つかっており同様な質の鉄が生産されていたと考えられます。

古代 福島県教育庁





ミミズク土偶 上境旭台貝塚



陵墓の埴輪

●大和・柳本・纏向古墳群 ●佐紀古墳群 ●古市古墳群 ●百舌鳥古墳群 ●西都原古墳群



始良丹沢火山灰の上下で石器出土 地蔵平遺跡 始良カルデラの大噴火を生き延びた北部九州旧石器人 古墳時代の金装飾付太刀 鳥居松遺跡



鉄 滓



京都東寺の平安時代の土塀

